（別記様式）

令和５年度　府立西乙訓高等学校　学校経営計画（スクールマネジメント）（ ~~計画段階~~　実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
１　個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的・対話的で深い学びを促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。 ２　基本的生活習慣を身につけ、自らを大切にし、他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。 ３　教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、　保護者、地域から信頼を得る。 ４　学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。	１　各種の広報活動（学校説明会、中学校からの説明会の依頼、「にしおつだより」の発行、ホームページ・インスタグラムの更新等）の結果、説明会への参加者の増加（昨年度より250名以上）とともに、前期志願者は微増した。しかし、定員を充足することができず、志願者増に向けて、新たな取組が必要である。 ２　進学補習や進路説明会、模擬面接等を丁寧かつ系統的に実施し、国公立大学及び私立大学等への進学、就職・公務員への希望進路を実現することができた。龍谷大学や京都産業大学等へは厳しい状況であり、進路に対する意識付け及び学力の向上が求められる。 ３　令和５年度に向けて、シャコピー短期留学プログラム（参加予定者６名）及びアーリントン長期留学プログラム（参加予定者１名）の国際教育プログラムを実施することができた。また、インターナショナルデイなどの新たな取組を実施した。台湾研修旅行は、国内（九州）に変更しての実施となった。 ４　ICT機器の利活用については、オンラインでの一斉配信を初め、活用の頻度、内容ともに増加向上している。教職員のスキルの更なる向上とWi-Fi環境等の設備面の充実（整備）が必要である。１年生にiPadが導入されたが、各種の取組の結果、図書館の貸出冊数は1,200冊に近づいた。 ５　コロナ禍ではあったが、感染防止対策を施し、年度当初に計画した学校行事はほぼ実施できた。各種の学校行事をとおしてクラスのリーダー的役割を担う生徒を育成することができた。 ６　継続して部活動に取り組んでいる生徒は、充実した学校生活を送っている。部活動の加入率及び定着率は低く、活気ある学校づくりの観点からもその対策が急務である。部員の確保が難しい部もあり、本校の部活動のあり方についても検討が急務である。 ７　個々の生徒の問題について、学年部や関係分掌とも連携し迅速に対応できた。また、教育相談会議や特別教育支援会議の内容を教職員間で情報共有するとともに、地域の専門機関と連携しケース会議を実施し、生徒の対応を協議することができた。コミュニケーションや相手の思いやりの不足によるトラブルや支援が必要な生徒は増加傾向にあり、更なる連携が必要である。 ８　規範意識の醸成については、啓発ポスターを作成し一定成果があったと感じるが、自宅、学校問わず、スマートフォンやSNSの適正利用については、引き続き啓発活動が必要である。	○保護者及び生徒による学校評価アンケートについて、全項目とも前年度を上回る評価を得る教育活動を実施する １　生徒の学力の向上と希望進路の実現 ・ICTを活用して、生徒に係る情報を迅速かつ正確に共有するシステムを構築する。 ・生徒一人一台端末導入２年目を迎え、教員のスキルアップを図り、主体的・対話的で深い学びを実現し、生徒の学習意欲を高める。 ・各種のツール等を積極的に有効活用するとともに生徒の知的好奇心を高め、主体的な学習をとおして希望進路実現に向けた学力の定着と向上を図る。 ２　豊かな人間性と規範意識の醸成 ・生徒の自己肯定感、満足度、充実感を高める教育活動を行う。 ・京都府教育委員会からの「グローバルネットワーク京都」、ユネスコ及び文部科学省からの「ユネスコスクール認定校」の指定、日本の伝統文化の体験、各種留学を含め国内外の高校生等との交流を積極的に行い、国際教育・英語教育をさらに発展させ、グローバル人材の育成を行う。 ・部活動の活性化を図り、加入率・定着率を高め、学校全体として活気のある集団を形成することにより、生徒の心身の健全なる成長を図る。今後の部活動のあり方について検討する。 ・生徒にけじめのある学校生活を過させることを通じて、規範意識の向上と公徳心の育成を目指す。 ・学年集会や学年だよりなどを十分に活用して、担任、学年を始め、教職員の思いを生徒にタイムリーに伝える。 ・全教職員が、すべての教育活動に人権意識を持って指導にあたる。 ３　広報活動等による積極的な情報発信 ・学校説明会、学校HPや「にしおつだより」の内容をさらに充実させるとともに、様々なツール（YouTube、Instagram等）を積極的に活用し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。 ・西乙訓高校の魅力を伝えるために、新しい企画を打ち出し、生き生きしている生徒の様子を地域にアピールする。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	分掌間・教科間の協力の推進	○Teams、教務黒板等を含めICTを活用し、情報の共有化と業務の効率化を推進し、分掌･教科間の連携を図る	A	B	B	・教職員への連絡・連携において、欠席連絡や朝の連絡会などのICT活用により、情報の共有化が図れた。 ＊欠課入力や欠課過多連絡が徹底されていない状況もある。 ・＊ICTの活用は一定浸透してきたが、朝の職員連絡会の合理化や出欠席管理の方法などにおいて、まだ改善点がある。 ＊ICT関係設備等の運用について、関係教員と連携をとるよう努めたが、様々な意見を集約するには至らなかった。 ＊今後、グローバル教育の研修などを更に積極的に取り入れ、教職員の高い理解につなげていきたい。
		○教職員全体が課題改善に向けた共通の認識をもち、連携と調整を図る。	B			
		○グローバル教育の推進校であることを全教員が認識し、各教科でグローバル教育を進める。	B			
学習指導と進路指導	授業改善	○研究授業や教科主任会を活発に行い、ICT活用の先進的な取組事例を教員間で共有し、授業改善を行う	B	B	B	・授業のipad等の使用状況に合わせ、ルーター等の整備を進めていく予定である。今年度はポケットwi-fiを5台追加配備した。また、コンピュータ教室の機器の更新を行い、生徒機ＰＣの画像、映像処理能力の向上をはかった。 ＊校内のwi-fi設備の充実が課題である。
		○生徒の基礎学力の定着と基本的生活習慣の確立のため、担任・教科・教務部が欠課時数や学習状況等を連携して確認できるようにする。	B			・Teamsを活用し、生徒の欠課状況について教科担当と担任、教務部の連携はとれた。 ・学習が困難な生徒に対して、各教科を中心として補充など、きめ細やかな指導を行えた。 ＊教科指導等は徹底されているが、基礎学力の定着における指導方法などを更に検討する必要がある。 ＊教科主任会議が実施出来なかった。 ＊課題が提出されにくい実態があり、課題内容について対策が必要である。
		○主体的・対話的で深い学びに向けてICTを積極的に活用する。そのために分掌・教科が連携し、先進的な取組事例等を教職員間で共有して授業改善が進むようにする。特に総合的な探究の時間が全校的な取組になるように校内体制を整える。	B			＊「主体的・対話的で深い学び」が出来るようなICTの各種ツールを活用する。
	学力の向上	○基礎基本を大切にし、個々の生徒に対応したきめ細やかな指導を行う	B			・教員間で、iPadを活用した授業方法の意見交流は出来た。 ＊総合的な探究の時間が担当者に任せる内容になっているが、誰が担当してもできる統一したプログラムを構築する必要がある。
		○主体的・対話的で深い学びに向けてICTを積極的に活用する。	B			
		○生徒一人一台端末導入受け、各種のツールを積極的に活用し、生徒の主体的な活動を促す。	C			
		○自学自習時間を増加させることにより、さらなる学力の向上を目指す。	C			
	国際教育の推進	○次年度以降に向け、シャコピー高校短期留学プログラムの仕事の流れの共有を図る	A	B		・シャコピー高校短期留学プログラムが実施できた。また、アーリントン高校長期留学プログラムも１名あった。次年度のシャコピー高校短期留学プログラムに向けても着々と準備が進んでいる。 ・シャコピー高校からの交換留学生の受け入れに際し、予算面や、行事の開催準備について調整をはかるなど国際教育の推進に貢献した。 ＊希望者（希望制）が少ないことにより英語キャンプが中止となった。本校が目指す「国際教育」の観点としては、全員参加に向けてメニューを検討する必要がある。 ・グローバルネットワーク京都校として総合的な探究の時間に論文提出やプレゼンテーション発表を行った。グローバルネットワーク京都交流会では、代表グループによる素晴らしい発表を披露できた。
		○総合的な探究の時間や各教科の学習、生徒会活動等、学校教育全体を通じて、ESD（持続可能な開発教育）を推進する具体的な取組を実施する。	B			
		○異文化理解や国際貢献意識の涵養を目的とした国際教育の一層の推進を図る。	B			
		○ユネスコスクール、グローバルネットワーク京都交流校として、SDGｓの取り組みにも力を入れる。	B			
	希望進路の実現	○３年７限講習、土曜講習、長期休業中の講習等の定着や充実を目指し、進路実現に向けて実力の向上を目指す。	B	B		・、土曜講習に出席している生徒は積極的に取組んでいた。２年生の出席率は低かった。 ・「考査前補充」が生徒の成績向上に繋がった。 ＊進路説明会などを実施し、志望先のミスマッチを防ぐよう担任と連携し、指導をしてきたが十分ではなかった。学年や教科等においても連携が必要である。 ＊早期の段階から（１年生より）進路について考えさせる取り組みをさせる必要がある。 ＊国公立大学志望者の減少、生徒への提示と共に保護者向けの説明会が不足していることが課題である。 ＊考査及び模試等での点数、偏差値の伸び悩みが見られた。進路学習の充実をはかり進路指導部と連携をとってはいるが、生徒の意欲・関心に変化があまり見られない。 ＊希望進路の実現について、基本的な知識を更に提示する必要性がある。保護者も進路についての知識を多く持たない。保護者との連携も今後の課題となる。
		○オープンキャンパス、小論文指導、模擬面接、進路説明会等を通じて、生徒が具体的な進路目標に向けて、行動できるように支援する。	B			
		○進路指導部と学年部及び各教科との連携を密にし、生徒個々の進路希望に応じた指導を徹底する。	B			
		○国公立大学・私立大学合格者数の増加及び進路決定率100%の実現を目指す。	C			
	図書視聴覚教育の充実	◇読書意欲の向上と図書館の利用促進		B		＊貸出冊数が増えず、対策が必要。 ＊図書館利用減少により、授業、HRでの活用を促す。
		○生徒の読書意欲向上と図書館利用の促進を図る新たな取組を行い、生徒の貸出冊数1,200冊を目標とする。	B			
		○昨年更新されたプロジェクターとICT機器の連携を軸とした視聴覚教室の環境整備を進める。	B			
		○授業及びホームルームでの積極的な図書館の利用促進を図る	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導 と 特別活動	規範意識の醸成	○校内でのｽﾏｰﾄﾌｫﾝの使用ルールの順守、季節や学校の雰囲気に応じた服装をさせる。また、清掃活動活動とともに、マナー等の向上を図る。	C	B	B	＊規範意識が薄い生徒が多い（特にスマホ使用が多い）。新たな取組が必要。 ＊頭髪、服装等での生徒指導は、増えることはなかった。 ＊遅刻・欠席での指導が後半増加した。 →生活習慣の乱れから生活リズムを崩す生徒が多く、改善されるまでに時間を要した。生活リズムが乱れた生徒に影響され、自身も生活リズムを乱す生徒もおり、統合的に対応しなくてはならない。 ＊トイレの使用のマナーが悪い生徒がいる。学校施設を大切に使うように呼びかけていく必要がある。
		○委員会活動をとおして、生徒自身から規範意識の醸成につながる取組を行う	B			
		○学年集会の実施　学年全体で規範意識を高める方法、考え方等を共有していく	B			
		○各担任を通じて、けじめのある学校生活の過ごし方を提案し、ホームルームで生徒同士が検討する場面を設ける	B			
	特別活動や部活動の充実	○球技大会や文化祭、体育祭をクラス委員と生徒会本部役員を中心に企画・運営を行っていく。	B	B		・キッチンカーの運営にあたり、設備・物品調達等の環境整備に尽力した。 ＊西乙祭等の行事日が主な運営日だったが、行事日以外のスムーズな運営に向け各方面の協力を得ながら運営日増加に向けて調整をしていきたい。 ＊部活動に入部するが、退部する生徒が多くみられる。
		○校外学習や研修旅行をクラス作りの一材料とし、運営委員を企画し、クラスだけでなく、学年としてのまとまりにもつなげる	B			
		○積極的に部活動への加入を勧め、部活動体験への参加を呼びかける	C			
	交通安全指導の推進	○各学期ごとに警察署、PTA、長岡京市、大山崎町の職員の方と協力し交通安全指導を行う。	A	A		・＊日常的に、交通安全指導が行われているが、残念ながら事故も見られた。更なる工夫が必要である。
		○自転車の危険運転については、SHRでの担任指導、学年集会や全校集会で啓発及び指導を行う	B			
	人権教育の推進	○いじめについては、教職員で本校のいじめ防止基本方針を確認し、全教職員が人権意識を持って全ての教育活動に取り組む	B	B		＊SNS上での他者への誹謗中傷に関する指導は少なくとどまったが、クラス内であったり他クラスとの生徒同士の交流では協力的に物事にあたることができず、また公徳心の希薄さが目立った。
		○年２回のいじめアンケートだけでなく、全教職員が生徒の言動に注意を払い、いじめ等の未然防止に努める。	B			
		○学年部・保健部・生徒指導部等で、生徒の情報を共有し、必要に応じてSCや関係機関と連携する	A			
		○SNSの適正利用に向けて、啓発活動を行うと共にその能力を習得するための取組を行う	B			
		○自分と違うものを認める集団になるよう導く。（コミュニケーション訓練を実施する）	B			
健康安全	環境・美化の推進	○環境美化活動や校外の清掃活動を行い、学校全体の意識向上を図る。	A	B	B	・体育館フロアの照明を一部LED照明に更新した。また、夏場の暑さ対策に資するため体育館にスポットクーラーを設置した。 ＊技術職員の草刈り作業時に現場に生徒が接近するなど、日常の業務に支障を来すケースがあった。”作業中”掲示板やトラローブの設置で対応している。 ・保健委員が定期的に清掃点検をするなど、積極的に環境美化活動をすることができた。 ・インフルエンザが流行する時期の昼食時に、感染症予防の呼びかけの放送を行ったり、ほけんだよりを発行することで、注意喚起することができた。 ＊ごみ捨てがされていない場所や掃除の徹底が不十分な箇所がある。 ＊ペットボトルをゴミ箱に捨てるなど、分別が出来ない生徒が一部にいる。 ＊定期的に全員清掃をするなど、校内美化に努める必要がある。
		○旧式の蛍光灯器具を順次LED器具に更新し、照度の向上も併せて省エネを進めていく。	B			
		○コロナ対策で進めてきた衛生対策を注意喚起を含め、引き続き進めていきたい。	A			
		○学習環境を整えるために、日常の清掃活動をきめ細かく丁寧に行い、保健委員会を中心としたゴミの分別等、環境美化活動や広報活動を行い、学校全体の意識向上を図る。	B			
	生徒の実態把握と支援の充実	○各種の補助制度や奨学金制度の情報発信に努め、必要な支援を行う	A	A		・教育相談会議や特別教育支援会議の内容を情報共有することができた。地域の専門機関と連携しケース会議を実施し、生徒の対応を協議することができた。 ＊家庭の問題や対人関係のストレスから精神的に不安定な生徒、学習や生活場面に支援が必要な生徒が年々増加している。支援が必要な生徒全てに対応するには、物理的な時間、体制、場所が必要である。
		○担任、教科担当、各分掌及び家庭との連携を密にし、必要な支援を適正に行う	A			
		○健康診断や宿泊を伴う行事の際には保健調査を行い、健康状況を把握すると共に、学校医・関係職員と連携して健康管理を行う。	A			
		○状況に応じて、スクールカウンセラー及び地域の専門機関（医療・特別支援センター・児童相談所等）との連携により、学校における教育相談及び特別支援教育を充実させる。	A			
魅力ある 学校づくり	広報活動の充実	◇「志願者増加に向けた目標と対策」および「学校説明会・広報誌にしおつだより等の充実」		B	B	・にしおつDayの新たな取組（七夕Day）やキッチンカーなど実施できた。 ・広報活動の取組は、広報・図書部を中心にして十分できた。 ・＊HPやインスタも目標をしっかり達成できた。更に各部活動などの協力をお願いしたい。 ・＊合同説明会では昨年を大きく上回る参加者数であった。その一方、学校主催説明会の参加が昨年より減少した。 ＊広報活動が志願者増に繋がらない。要因を分析する必要がある。 ＊志願者は減り、特に地元が落ち込んでいる。次年度に向け、検討したい。 ＊ホームページリニューアルについては次年度検討したい。
		○志願者増加に向けて、こまめに中学校との連携を図り「11月の志願者数160名（昨年123）、最終志願者を昨年（181）より、のべ合計50名増加」させる。（目標前期110（倍率2倍に）中期120（定員＋約10名）） ○まず乙訓地域を重点に近隣20中学校と連携を深め、また他の地域へ範囲を広げた広報活動を行い、志願者増加を図る。 （11月調査　第1志望者数目標　乙訓地域：80（昨年65）　京都市地域：70（昨年58）） ○学校説明会において、積極的にICTを活用するとともに、中学生や保護者を惹きつけるような本校の魅力・特色などを発信する。また、説明会の参加者を昨年より「100名増加」させる。（昨年度47名増） ○広報誌にしおつだよりを「約月1回発行」し、中学生などに学校の取組や情報、生徒の活躍、本校の魅力を発信する。	B			
			B			
			B			
			A			
		◇「在校生に向けた取組」と「WEB等による広報の充実」 ○各取組を紐付けし、国際教育の学びをより実感させる。また広報・図書部主催イベント「にしおつDay」を新たに計画・開催し、学校生活をより楽しませ、生き生きしている様子を地域や中学生にアピールすることで本校の志願者増加につなげる。 ○校内モニターを活用し、在校生に向けた取組を行う		B		
			B			
			B			
	安心・安全な学校環境	○定期的に施設設備の安全点検を行い、危険箇所を把握する。	A	A		・２００番棟トイレの自動水栓化を実施した。 ・換気環境の充実をはかるため、HR教室、普通教室に網戸を設置した。前年のHR教室に引き続き、普通教室等への換気扇、サーキュレーターの設置等、衛生環境の向上に取り組んだ。また、特別教室等にもCO２モニター設置した。
		○日常の教育活動において全教職員が連携し生徒の安全を確保する。	B			
		○昨年に引き続き、衛生委員会で提起を受けた事項を中心に、保健部と十分協議のうえ、校内の衛生環境の向上に取り組み、学習環境を整える。	B			
		○各水栓の自動化整備及び各教室整備のCO２モニタを利用しながら、換気扇やサーキュレータの整備を推進していく。	A			
	学年の取組（３年）	Where there’s a will, there’s a way.「意志あるところに道あり」 自らの意志で道を切り拓くような高校生を育てる。	B	B		・何事にも素直に取り組むよう指導を継続して行った。今年度はかなり学年の指導が浸透してきたように思う。 ＊大人しい生徒が多いが、自己肯定感を持てない生徒が多い。 ＊信頼関係を築くのに時間がかかった。
		○社会へのWILL(意志)－素敵な高校生になるために－　社会の一員としてマナーを守り、自分にも他人にも誠実な生徒を育てる。	B			
		○学びへのWILL(意志)－夢を叶えるために－　豊かな未来を実現するために、様々なことを学ぶ姿勢を持つ生徒を育てる。	B			
		○自分へのWILL(意志)－プラス思考で－　自分の成長のために、何事にも常に前向きに取り組む生徒を育てる。	B			
	学年の取組（２年）	○学習面、生活面、すべてにおいて生徒自身が自律的に考えて行動出来るようになるように指導にあたる。その際、研修旅行を念頭におき、大きな一つの目標として諸活動を進めていく。	A	A		・研修旅行では、時間を守るなど規律ある集団行動をとることが出来た。
	学年の取組（１年）	○学習習慣の確立　各教科への取り組み状況を教科担当と連携し確認していく	B	B		・清掃はどのクラスも意欲的に取り組むことができた。学年行事での準備・片付けも速やかにおこなえ、集団としてのまとまりは高まった。 ・＊学年での取り組みには全体が意欲的に関わることができ、達成感は高いものだった。ただ学校生活をする上で守るべきこと（身だしなみ・言葉遣いなど）への理解が進まず、同じ指導を繰り返しする必要がある。 ＊各教科担当に細やかな指導をしてもらったが、生徒自身が危機感を持つことが出来ず、基礎学力の定着がはかれない生徒が多く見られた。欠席や遅刻が多いため、継続して学習指導をすることができず、狙った定着がはかれない。
		○視覚から伴う印象をどのように向上するのか、清掃そのものがそれであることを理解させ、あわせて、身だしなみや立ち振る舞いも同じものだということを認識させる。	B			
		○行事への積極的な参加を全体に促し、学級のみならず学年で一つのことに取り組むことへの意義を理解させ、学校生活が豊かになるように取り組んでいく。	B			

学校関係評価委員会による評価	・ICT環境がかなり整っているようなので、主体的な学習において、さらに効果的な使用方法を考える必要があるのではないか。放課後の補習や授業を視聴できるようなシステムを構築してはどうか。 ・これまでの実績がある国際交流（留学、研修旅行など）を積極的に発信する。体験した生徒自身がSNSによって発信することも効果的だと思われる。ホームページは勿論だが、instagram等にも積極的に発信していくとよい。 ・多くの生徒が部活動に加入し、活気のある西乙訓高校を目指してほしい。今後もさらに部活動についての検討（今ある部活の精選や新しい部活動など）は進める必要がある。部活動以外にもに西乙訓高校の強みを前面に押し出してもよいのではないか。 ・希望進路の実現100%を目指す。そのためには早期からの保護者も巻き込んだ進路指導が必要である。
次年度に向けた改善の方向性	・生徒にはもっといろいろな形でICT活用できるように定期的に教員研修などを実施し、生徒にとって効果的な活用方法を検討する。学校外の研修などにも積極的に参加することにより、さらに高度な活用技術を身に付ける。 ・今後も短期・長期留学を継続し、留学以外の国際交流に関する取組（現在では、スピーチコンテストやイングリッシュキャンプ等がある）についても検討していく。 ・地域に貢献できる生徒の活動（挨拶運動や交通安全指導等）を実施し、地元に信頼される西乙訓高校を目指す。 ・早い時期から、生徒と保護者の進路意識を高めるための進路説明会や大学見学会（現在も実施しているが）等を実施し、多くの方々に参加してもらえるように効果的なお知らせ方法などについても考える。